

## 要約練習用文献リスト

- バトラー後藤裕子 (2015). 『英語学習は早いほど良いのか』 東京：岩波新書
- 千野栄一 (1986). 『外国語上達法』 東京：岩波新書
- 藤永 保 (2001). 『ことばはどこで育つか』 東京：大修館書店
- 羽生善治 (2005). 『決断力』 東京：角川書店
- 橋本大二郎、他 (2013). 『おどろきの中国』 東京：講談社新書
- 本川 裕 (2013). 『統計データが語る日本人の大きな誤解』 東京：日経プレミアシリーズ
- 市川 力 (2004). 『英語を子どもに教えるな』 東京：中公新書ラクレ
- 一川 誠 (2016). 『時間の使い方を科学する』 東京：PHP 新書
- 市川伸一 (2013). 『勉強法の科学—心理学から学習を探る』 東京：岩波書店
- 池上 彰 (2002). 『大人も子どももわかるイスラム世界の「大疑問」』 東京：講談社+新書
- 池上 彰 (2005). 『そうだったのか！アメリカ』 東京：集英社
- 池上 彰 (2007). 『そうだったのか！現代史』 東京：集英社
- 池上 彰、佐藤 優 (2015). 『大世界史—現代を生き抜く最強の教科書』 東京：文芸春秋
- 池谷裕二 (2006). 『脳はなにかと言いつける』 東京：祥伝社
- 池谷裕二 (2012). 『脳には妙なクセがある』 東京：扶桑社
- 池谷裕二 (2013). 『単純な脳、複雑な「私」』 東京：講談社
- 今井むつみ (2016). 『学びとは何か—探究人>になるために』 東京：岩波新書
- 井上京子 (1998). 『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待』 東京：大修館書店
- 猪浦道夫 (2003). 『語学で身を立てる』 東京：集英社新書
- 岩淵秀樹 (2013). 『韓国のグローバル人材育成力』 東京：講談社新書
- 大谷泰照 (2007). 『日本人にとって英語とは何か』 東京：大修館書店
- 門倉貴史 (2010). 『本当は嘘つきな統計数字』 東京：幻冬舎新書
- 苅谷剛彦 (2005). 『学校って何だろう—教育の社会学入門』 東京：ちくま文庫
- 苅谷剛彦 (2012). 『アメリカの大学・ニッポンの大学』 東京：中公新書ラクレ
- 苅谷剛彦 (2012). 『イギリスの大学・ニッポンの大学』 東京：中公新書ラクレ
- 刈谷剛彦、増田ユリヤ (2006). 『欲ばり過ぎるニッポンの教育』 東京：講談社現代新書
- 加藤陽子 (2009). 『それでも日本人は「戦争」を選んだ』 東京：朝日出版社
- 児玉光雄 (2006). 『なぜモチベーションが上がらないのか』 東京：ソフトバンク新書
- 久米昭元、長谷川典子 (2007). 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション—誤解、失敗、すれ違い』 東京：有斐閣
- 前坂俊之 (2010). 『明治三七年のインテリジェンス外交』 東京：祥伝社

- 正高信男 (1993). 『0歳児がことばを獲得するとき』東京：中公新書
- 正高信男 (2003). 『ケータイを持ったサルー「人間らしさ」の崩壊』東京：中公新書
- メイナード、K. 泉子 (2009). 『ていうか、やっぱり日本語だよ。』東京：大修館書店
- 茂木健一郎 (2007). 『脳を活かす勉強法—奇跡の「強化学習」』東京：PHP
- 森島泰規 (2015). 『なぜ外国語を身につけるのは難しいのか』東京：勁草書房
- 内藤正典 (2012). 『イスラームから世界を見る』東京：ちくまプライマリー新書
- 中田 考 (2017). 『イスラーム入門』東京：集英社新書
- 行方昭夫 (2014). 『英会話不要論』東京：文春新書
- 21世紀研究会 (2003). 『色彩の世界地図』東京：文藝春秋
- 西林克彦 (2005). 『わかったつもり—読解力がつかない本当の原因』東京：光文社新書
- 西野仁雄 (2008). 『イチローの脳を科学する—なぜ彼だけがあれほど打てるのか』東京：冬幻舎
- 野村雅一 (1996). 『身ぶりとしぐさの人類学』東京：中公新書
- 岡田圭子・野村隆宏 (2011). 『アスリートたちの英語トレーニング術』東京：岩波ジュニア新書
- 岡田斗司夫 (2007). 『「世界征服」は可能か?』東京：ちくまプライマリー新書
- 岡本浩一 (2002). 『上達の法則—効率のよい努力を科学する』東京：PHP 新書
- 大津由紀雄 (2007). 『英語学習 7つの誤解』東京：NHK 出版
- 斎藤 孝 (2001). 『「できる人」はどこがちがうのか』東京：ちくま新書
- 斎藤 孝 (2004). 『教え力』東京：宝島社
- 斎藤 孝 (2006). 『質問力』東京：ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2006). 『段取り力』東京：ちくま文庫
- 斎藤 孝 (2007). 『教育力』東京：岩波新書
- 斎藤 孝 (2015). 『語彙力こそが教養である』東京：KADOKAWA
- 斎藤兆史 (2000). 『英語達人列伝—あっぱれ、日本人の英語』東京：中公新書
- 酒井邦嘉 (2011). 『脳を創る読書』東京：実業之日本社
- 三森ゆりか (2003). 『外国語を身につけるための日本語レッスン』東京：白水社
- 榊原洋一 (2004). 『子どもの脳の発達 臨界期・敏感期』東京：講談社α新書
- 榊原洋一 (2009). 『脳科学の壁—脳機能イメージングで何が分かったのか』東京：講談社α新書
- 佐々木紀彦 (2011). 『米国製エリートは本当にすごいのか?』東京：東洋経済新報社
- 佐々木俊尚 (2006). 『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』東京：文藝春秋
- 渋谷昌三 (2014). 『電車の中を10倍楽しむ心理学』東京：育鵬社
- 白井恭弘 (2004). 『外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待』東京：岩波  
科学ライブラリー
- 白井恭弘 (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』東京：岩波新書

- 鈴木孝夫 (1990). 『日本語と外国語』 東京：岩波新書
- 鈴木孝夫 (2011). 『あなたは英語で戦えますか』 東京：富山房インターナショナル
- 橘木俊詔 (2010). 『灘校—なぜ日本一で有り続けるのか』 東京：光文社新書
- 谷口一郎 (2007). 『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法』 東京：ちくま書房
- 竹内 薫 (2006). 『99.9%は仮説—思い込みで判断しないための考え方』 東京：光文社新書
- 竹内 理 (2007). 『達人の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』 東京：草思社
- 瀧本哲史 (2011). 『僕は君たちに武器を配りたい』 東京：講談社
- 寺沢拓敬 (2015). 『日本人と英語の社会学』 東京：研究社
- 外山滋比古 (1986). 『思考の整理学』 東京：ちくま文庫
- 山田雄一郎 (2006). 『英語力とは何か』 東京：大修館書店
- 山岸俊男、M.C. プリントン (2010). 『リスクに背を向ける日本人』 東京：講談社新書
- 吉田新一郎 (2006). 『テストだけでは測れない！—人を伸ばす「評価」とは』 東京：NHK 出版
- 好井裕明 (2006). 『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』 東京：中公新書